

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2014年23週 (6月1週 6/2~6/8)

2014年5月報

愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail : eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先 : 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、梅毒、中東呼吸器症候群(MERS)について

定点医療機関コメント

溶血性レンサ球菌感染症、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、水痘、インフルエンザ等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(40)、腸管出血性大腸菌感染症(1)、アメーバ赤痢(3)、ウイルス性肝炎(1)、クロイツフェルト・ヤコブ病(1)、後天性免疫不全症候群(3)、侵襲性肺炎球菌感染症(4)、梅毒(2)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症(1)

2014年5月報

定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

トピックス

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(図1)

23週の定点当たり報告数は2.66、22週524人23週485人(0.93倍)です。

【参考ページ】A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a_youren.html

咽頭結膜熱(図2)

23週の定点当たり報告数は0.75、22週112人23週136人(1.21倍)です。

梅毒(図3) (5ページ参照)

2014年23週までの累積報告数は61件です。2013年23週までの累積報告数は21件、2013年総計は54件でした。

全国の2014年22週までの累積報告数は586件です(2013年総報告数は1,226件)。

【参考ページ】梅毒の発生動向について(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/dl/260430-01.pdf

増加しつつある梅毒 感染症発生動向調査からみた梅毒の動向 (国立感染症研究所)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/syphilis-m/syphilis-iasrd/4497-pr4095.html>

中東呼吸器症候群(MERS)について

【参考ページ】中東呼吸器症候群(MERS)に関する対応について(協力依頼)(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dl/20140516-01.pdf>

中東呼吸器症候群(MERS)のリスクアセスメント(2014年6月9日現在)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/2014-02-19-09-27-24/2186-disease-based/alpha/hcov-emc/idsc/4731-mers-riskassessment-20140609.html>

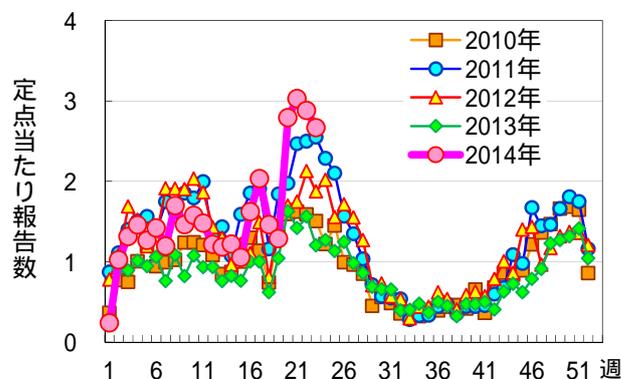


図1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

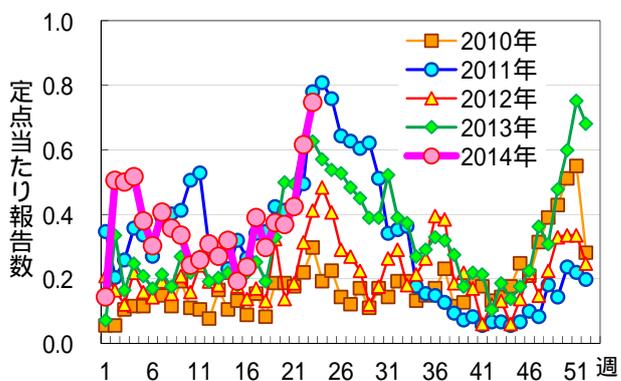


図2 咽頭結膜熱

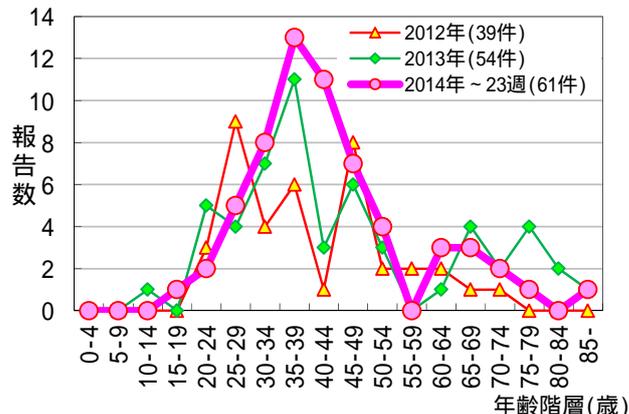


図3 梅毒の年齢階層別報告数

(愛知県、診断週集計、無症状病原体保有者含む)

定点医療機関コメント(名古屋市除く)

尾張西部地区

4歳女 インフルエンザB型 家族内感染
溶連菌感染症あり

【一宮市 後藤小児科医院】

溶連菌感染症 少し

【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】

水痘 3名あり。流行がある様です。

【犬山市 武内医院】

溶連菌感染症、感染性胃腸炎 減少

手足口病 3名

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

溶連菌感染症、アデノウイルス感染症 多く
なっています。

ウイルス性胃腸炎が目立っています。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

B型インフルエンザ患者が2名いました。

【北名古屋市 田中クリニック】

水痘の流行がやや下火になって参りました。

【清須市 丹羽医院】

尾張東部地区

溶連菌続発中です。

その他 水痘等

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

溶連菌感染症 11名と流行っていますが、他
は落ち着いています。

【豊明市 こども元気クリニック】

5月にひきつづき胃腸炎が多い。

【日進市 みやがわクリニック】

夏季らしい感染症になりつつあるようです。

インフルエンザ 小児1名(B型 1名)

【春日井市 春日井市民病院】

溶連菌・感染性胃腸炎 減少傾向

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

咽頭結膜熱、溶連菌がやや多いようです。

【小牧市 志水こどもクリニック】

感染性胃腸炎が多いです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

9歳女 マイコプラズマ

水痘、ムンプスがふえてきています。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

アデノウイルス感染症 2名(2歳、3歳)

胃腸炎は少なかったです。

【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

イムノエースアデノ(+) 1歳2名、3歳1名

イムノエースStrepA(+) 5歳4名、9歳1名

E.coli(O25)とカンピロ腸炎 13歳男

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

9か月男 病原性大腸菌O18(+)VT(-)

6か月男、8か月男 病原性大腸菌O1(+)VT(-)

6か月男 病原性大腸菌O125(+)VT(-)

1歳男 カンピロバクター

【岡崎市 にいのみ小児科】

アデノ 4歳女2名、2歳女、5歳女、7歳女

アデノウイルス感染症が増えています。

溶連菌も流行中

【岡崎市 花田こどもクリニック】

マイコプラズマ肺炎 44歳女

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

溶連菌感染症、アデノウイルス感染症は増加
傾向です。

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

アデノウイルス感染症

1歳男、2歳男、3歳男、3歳男

【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

咽頭結膜熱 2歳 女

【豊橋市 富安眼科】

病原性大腸菌O1 2歳女

病原性大腸菌O1 0歳女

病原性大腸菌O86a 8歳女

病原性大腸菌O18 8歳男

【豊川市 ささき小児科】

ヒトメタニューモウイルス 1名(2歳男)

【田原市 愛知県厚生農業協同組合連合会渥美病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2014年6月11日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki jun140512.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2014年23週報告数			2014年総計(1～23週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	22	5	10	296	81	79
豊田市	2			24	4	8
豊橋市	3		3	31	9	8
岡崎市				23	13	3
一宮	2		1	76	17	26
瀬戸	2	1		67	12	21
半田				15	9	2
春日井	1			41	9	7
豊川	1			24	9	4
津島				25	10	10
西尾	2			22	8	4
江南	1		1	24	8	6
新城				3	1	1
知多				41	7	11
清須	3		1	23	4	9
衣浦東部	1			39	11	10
合計	40	6	16	774	212	209

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	豊田市	45歳	女	- / -	6 / 3	6 / 3	O157、VT2(+) 無症状病原体保有者

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	51歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内
2	一宮	40歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内
3	半田	47歳	男	腸管アメーバ症	性的接触	国内

ウイルス性肝炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	予防接種歴	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	37歳	男	B型	無	性的接触	フィリピン

クロイツフェルト・ヤコブ病（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型
1	名古屋市	62歳	男	古典型

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	66歳	男	無症候性キャリア	性的接触、 静注薬物使用	国内
2	豊田市	56歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
3	一宮	16歳	男	AIDS	性的接触	国内

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	岡崎市	0歳	女	有	国内
2	豊川	64歳	女	無	国内
3	衣浦東部	63歳	女	無	国内
4	衣浦東部	0歳	女	有	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	66歳	女	無症候	不明	国内
2	衣浦東部	44歳	男	晩期顕症	性的接触	国内

バンコマイシン耐性腸球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	名古屋市	65歳	女	ギリシア

5月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況 [()は無症状病原体保有者再掲。]

2013～2014年に報告のあった 疾病名及び病型 ()内は全数把握対象疾病数		2014年5月			2014年	2013年	
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>	
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0	
二類 (5)	結核	108 (43)	53 (16)	161 (59)	733 (191)	1,915 (468)	
三類 (5)	細菌性赤痢	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	16 (2)	
	腸管出血性大腸菌感染症	5 (1)	1 (0)	6 (1)	16 (4)	211 (58)	
	腸チフス	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	
	パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	
四類 (43)	E型肝炎	0	1	1	1	2	
	A型肝炎	0	0	0	7	4	
	チクングニア熱	0	0	0	0	1	
	つつが虫病	0	0	0	0	4	
	デング熱	1	0	1	3	14	
	マラリア	0	0	0	1	8	
	レジオネラ症	2	3	5	20	64	
五類 (18)	アメーバ赤痢	5	1	6	32	62	
	ウイルス性肝炎	0	1	1	5	16	
	内訳	B型	0	1	1	4	7
		その他	0	0	0	1	9
	急性脳炎	1	0	1	6	24	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	2	7	10	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	7	8	
	後天性免疫不全症候群	1	6	7	40	99	
	内訳	無症候性キャリア	1	2	3	24	64
		AIDS	0	4	4	15	33
		その他	0	0	0	1	2
	ジアルジア症	0	0	0	1	2	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症*	1	1	2	7	13	
	侵襲性髄膜炎菌感染症*	0	0	0	1	0	
	侵襲性肺炎球菌感染症*	13	3	16	60	76	
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	2	
	梅毒	5	4	9	59	54	
	内訳	無症候	0	2	2	32	25
		早期顕症	4	2	6	24	24
		晩期顕症	1	0	1	3	5
破傷風	0	0	0	0	5		
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	6		
風しん	0	0	0	13	375		
麻しん	2	1	3	32	25		
総 計		146	76	222	1,054	3,021	

* 2013年4月1日から、5類感染症(全数把握対象疾患)に「侵襲性インフルエンザ菌感染症」及び「侵襲性肺炎球菌感染症」が追加されました。なお、この2疾患()を除く細菌性髄膜炎については引き続き基幹定点把握対象疾患です。同じく5類感染症の「髄膜炎菌性髄膜炎」が「侵襲性髄膜炎菌感染症」に変更されました。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2014年5月			2014年 累計	2013年 総計
		愛知県 <small><名古屋市除く></small>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	104	70	174	648	1,746
	性器ヘルペスウイルス感染症	37	26	63	295	707
	尖圭コンジローマ	23	18	41	145	382
	淋菌感染症	36	33	69	286	708
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	95	7	102	495	1,212
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	0	3	23	84
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	4	9
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2014年5月			2014年 累計	2013年 総計
	愛知県 <small><名古屋市除く></small>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
エキノコックス症の犬	0	0	0	1	0

感染症の類型及び定義(感染症法)

2014年5月12日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (44疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症* (1疾病)	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

* 2013年5月6日に指定感染症に定められた「鳥インフルエンザ(H7N9)」は、指定感染症としての指定期間が1年間延長されました。

